

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493600017
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜いずみ野
訪問調査日	平成 19 年 8 月 6 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 18 日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1493600017		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	みんなの家 横浜いずみ野		
所在地 (電話番号)	横浜市泉区和泉町7591-18 (電話)045-306-0727		
評価機関名	株式会社 フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋 1-2-4 クゲヌマファースト 3F		
訪問調査日	平成 19 年 8 月 6 日	評価確定日	平成 19 年 9 月 18 日

【情報提供票より】19年7月3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11人	常勤 2 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 11 人	

(2)建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築	<input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄骨造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,350円	

(4)利用者の概要(7月3日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.0 歳	最低	62 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	湘南泉病院、八木在宅クリニック、中村歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、横浜市の南西部に位置し、田畑に囲まれ、近くに流れるいずみ川と公園のあるのどかな自然の豊かな環境にあります。平成18年4月に開設され、明るいきれいな新築の建物の、2ユニットのグループホームです。
 運営法人は、埼玉県、東京都、神奈川県に多数の認知症グループホームを運営管理し、このほか訪問介護、通所介護、介護付き有料老人ホーム等の幅広く福祉と看護と医療のネットワークを持つ福祉企業です。
 建物の内部は、明るく清潔で、換気装置も完備し、エレベーターを備え、廊下は広く、手すりは随所に設置され全てバリアフリーとなっています。利用者はこのような良好な環境の中で、四季を通し、季節に応じた行事を楽しみ、和気あいあいと日常生活を送っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	開設が平成18年4月で、外部評価は今回が初めてです。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	管理者はサービス評価の意義を正しく理解し、自己評価を全職員で行うなど、この評価をサービス向上に活かして、今後も続けて行く予定です。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	運営推進会議は、平成19年8月に開催する予定で、着実にその準備が進められています。この会議により、利用者へのサービスの実際、評価への取り組み状況等についての報告や話し合いを行うことにより、サービスの向上に一層活かされると思われます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	職員は家族等が事業所へ訪問した際、意見や要望を聞き、また、苦情や要望が寄せられたときは、迅速に対応する取り決めが図られています。苦情や相談・要望をケアサービスや運営の改善を図るための原動力として、前向きにとらえ、体制づくりに一層努めています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	開設後まだ1年余りですが、地域住民の一員として、共に暮らし、支え合い、理解と協力を得ていく取り組みが、今後なお一層求められます。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活できるように、近くを散歩したり、地元の商店で買い物をし、理髪店やスナック等を利用し、顔見知りになり、親近感を増している。 また、事業所は地域の一員として、近所の人々との関係づくりとその役割を十分に認識し、グループホームに対する理解と協力を得ていく取り組みをしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、施設の理念である、「共に助け合い、共に喜び、共に笑う」を認識し、スタッフ会議等でも理念に触れ確認し合い、日々の介護・介助に当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方から、採りたての野菜等のおすそ分けをいただいたり、自治会・町内会にも加入し、お祭りや盆踊り等に地域の一員として参加して交流を深めている。 また、子供会で行う廃品回収にも参加するなど地域の人々とお互いに支え合えるように取り組んでいる。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価の意義や目的を理解し、スタッフ会議や学習会を通じて職員に伝え、話し合いや意見を聞き反映させてサービスの改善に取り組んでいる。 今後も折に触れ、自己評価を具体的な改善に活用し、質の向上に努めていく考えである。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、自治会長、自治会役員、行政の方、事業者のメンバーで構成され、平成19年8月末に実施する予定で準備が進められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、区役所の担当部署へ、施設の運営や現場の実情を積極的に伝え、考え方や実態をよく知ってもらうように働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の来訪時には、声をかけ、利用者の日頃の暮らしぶりや日常の様子等を伝え、利用者の状況や家族のことについても話合っている。 また、ホーム便り「一言通信」は、毎月発行し家族等に報告している。この便りには、事業所の行事や利用者の健康状態等と金銭出納帳の写しも合わせて送り、利用者の暮らしぶりを伝え、意見や感想も聞いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱が設置され、また、入所時には、苦情相談の受付窓口担当者等を伝えている。そして、家族等には来訪時常に話しかけ、何でも話していただけるような雰囲気づくりにし、家族等からの意見や要望を介護・介助に反映させていくように取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当施設は開設後1年を経過しており、運営法人内の定期異動や新設事業所への配置転換でスタッフが異動することもあるが、利用者や家族等が不安を抱かないように十分に配慮して行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人は、人材育成の重要性を認識し、常勤、非常勤を問わず社内研修制度に参加し、社外研修にも非常勤職員の希望があれば参加できるような体制づくりとなっている。 また、研修後はスタッフ会議等で研修報告や資料を発表するなど共有化にも努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政区内のグループホーム連絡会にも参加し、日々のサービスの質の向上や職員育成に役立つ実践的交流や連携に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は、入所前に、利用者一人ひとりが安心してサービスを利用できるように話し合いをし、家族からの情報、意向を十分に聞き、良好な人間関係を築きながら入所できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が地域の中で、その人らしく生活を続けることができるように、「共に暮らし、地域の人と、地域で暮らす」理念を実践している。そして、お互いが協働しながら、和やかな生活を送ることができるような場面づくりを支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は、7月の七夕には短冊に自分の思い思いの希望を書くなど、日頃より一人ひとりの暮らし方の希望や願いを引き出す場面づくりに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、家族の意向を状況に応じて聞き、本人の希望を日常の関わりの中から受け止めてカンファレンスで課題を検討している。それに基づいて利用者一人ひとりの独自性のある実践可能な介護計画の作成に努めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、最低3ヶ月に1回程度は行っているが、利用者や家族等の要望や変化に応じ、随時の見直しも行い、その人にあった新たな介護計画の内容を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族等が安心して暮らし続けていくために、家族状況を十分に把握し考慮して、自費サービスを活かしながら臨機応変に柔軟にサービスの提供を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診は、開設後まだ1年余りのため、未実施であるが、かかりつけ医の往診が月に二回あり、また専門分野の受診が必要な利用者には、協力医療機関の病院や医療連携体制加算によって訪問看護も利用している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には利用者や家族等と予め話し合いをしているが、利用者が重度化し、変化していく場合には、かかりつけ医や家族を交えて話し合いをし、状態の変化に応じた方針の統一ができるように支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の対応は、利用者の誇りを大切にされた対応がなされている。トイレ誘導などの際も、他の人に分からないようなさりげない声かけに配慮している。 また個人情報に関わる書類については、きちんと鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の生活において、本人の希望を聞き取りながら、その人らしい生活を支援している。自分の考えを表出できない人には、入居時の情報をもとに働きかけて支援している。そのためにも生活歴をしっかりと把握するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の食べられないものなどを把握し、代わりのものを考えるなど好みを採り入れながら食への意欲につなげるように配慮している。また、食事の盛り付けなども利用者の力を引き出すように配慮している。そして、食事が遅い人に対してもその人のペースでゆっくりと食事をとるように気配りしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一人ひとりの心身状態に合わせて、希望があればいつでも入浴できるように支援している。入浴を拒む人にもタイミングを考えたり、カレンダーに印をつけたりして利用者が納得できる形で入浴できるような配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は広告の用紙などを利用してこよりを作り、また箆などを編むのが得意な人、牛乳パックで椅子作りをする人などそれぞれの自分のできる力を少しでも発揮するように支援している。 また食事の盛り付けや片付けなどもできることは、お手伝いを依頼し、そっと見守りながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者と職員と一緒に、日常のおやつヨーグルトなどの食べ物をスーパーに行き、一緒に買い物をするようにしている。レジで支払いが出来るような配慮もしている。 個別ケアとしては、外出レクリエーションとして個人の希望を聞いて電車やバス、徒歩を組み合わせた一日		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上施錠している。しかし本人の希望があれば、安全に配慮し、自由に外出ができるように対応がなされている。居室の鍵は本人の希望に任せ、自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網は整備されている。利用者の生活安定や事業所に対する理解と協力を得ていくために、公園や近くの散歩の折りには、近隣の方に積極的に挨拶を交わしている。		防災訓練や避難訓練は、地域の消防団や自治会と連携を深め協力を得て、定期的実施されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の個々の食事量や水分量はチェック表に記入されている。また、栄養のバランスは個人の嗜好も加味し、代替の物も用意するなど、食事への配慮も充分に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は写真や草花、季節感のある飾り付けがなされている。大きな日めくりのカレンダーもかけられ、「喜怒哀楽」などの「四文字熟語」が書かれていて、利用者の興味を引く配慮が見られる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの物が持ち込まれ居こごちの良い場所となっている。テレビ、タンス、アルバム、仏壇などが持ち込まれ、家族の写真なども飾られている。ソファの持ち込まれた部屋もあり、家族等とゆっくりと歓談できるように配慮している。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 横浜いずみ野
(ユニット名)	1U
所在地 (県・市町村名)	横浜市泉区和泉町7591-18
記入者名 (管理者)	菅沼 弓子
記入日	平成 19 年 7月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>散歩に出たり地域で買物したり、散髪屋さん、スナック等利用し地域の人達と話しをしたり、又はご近所のお庭を見せて頂いたりして過ごしています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・スタッフルーム、玄関には、はっきりと掲示し、フロアにもさりげなく 提示し、常に意識づけをしています。</p> <p>・申し送り、スタッフ会議等で機会をもち話し合いの中で理念を確認し合っています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>自治会に入会しました。</p>	<p>運営推進会議を機に地域との交流を深めていく取り組みをしていきたい</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・お隣の家でできた野菜を頂いたり、ホームでの餅つきに参加して頂いています。</p> <p>・近所にあるスナックをティータイムやカラオケ、誕生会等で利用しています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・1周年記念行事の際、地域の方々に参加して頂きたく招待のチラシを配布しました。</p> <p>・子供会で取り組んでいる廃品回収に月2回参加、協力しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	スタッフ間で、地域貢献に向けての話し合いは行っています		認知症を理解して頂けるような学習会に向けての取り組みを行ってきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議、学習会に全員で話し合い理解しています。		具体的に定期的な自己評価を実施してきたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	泉区の運営推進会議の第1回を8月に行います。メンバーを選出しています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・区役所にはよく足を運んでいます。 ・担当者とは電話等でもよく話をする機会を設けています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・現在制度を活用している方もいます。 ・本人に必要な時には、代弁者としての支援を行っています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内では皆のこととして話し合い、再確認できています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・契約書の内容は事前に利用者、家族等にお渡し、ゆっくりと確認して頂いています。 ・契約、解約時は読み合わせをしながら理解して頂き、疑問点があるかどうか確認をしております。 	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族等の面会時、管理者に声をかけて頂き、話しやすい環境を作り話を聞いています。 ・利用者さんの苦情言動等は、生活記録、申し送りに記録をしています。苦情箱を設置しています。 ・介護支援経過に記録し、申し送り会議等で周知徹底し対応しています。 	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の面会時にはどのスタッフも必ず御家族に声をかけホーム内に貼ってある行事又は日常の様子を撮った写真等見ながらお話をしています。 ・変薬、体調変化等は、必ずご家族等に連絡をしています。 ・1ヶ月月初に、それぞれ担当のスタッフがコメントを書き、金銭については金銭出納帳の写し職員異動等の報告もしています。 	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会を設け、家族同士の顔見知りの関係を作り、話し合いの場を作っています。 ・苦情への対応は管理者責任をもって対応しています。と共に職員につなげ話し合いを行っております。 	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ会議やスタッフ面談等を行い、ひとりひとりの意見を聞く場を作っています。 ・運営方法や職員交代等の決定に関しては月1回の会議でスタッフに報告をしています。 	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な対応が出来る人員確保ができています。 ・入居者さんの状態に合わせて必要な時間に、時間パートさんの配置をしています。 	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の半数以上が開設以来のスタッフとなっています。離職、新設事業所への移動は数人です。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社内に研修制度があり、職員(パート職員)誰もが参加できるよう提示、回覧をしています。 ・月1回のスタッフ会議はスタッフ全員出席としています。その中で研修報告や資料提供をしています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・泉区と神奈川県 GH 連絡会に加入しています。 ・他の GH のホーム長と交流をする機会を持っています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・定期的にスタッフカンファレンスを行い、1対1でじっくり話し合う場を設けています。 ・ホーム内では、入居者さんから離れた所に休息の場を設けています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・現場での状況変化やスタッフの努力や成果は把握しています。 ・現場ではスタッフ各自が役割分担している所はスタッフに任せています。 ・健康を保つ為健康診断を実施しています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・御本人がゆっくと安心してお話しをして頂ける環境作りをしています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・家族等が今何に困っているのかをゆっくと話を聞くようにしています。 ・家族が今後どのようにしたいのか、思いも聞く様になっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が一番今困っていることや、相談内容に応じて説明をしています。(具体的にここならそのようなことが安心できます等の支援、対応しています)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人の面談時は納得されてない状態の方も少しでも信頼関係ができるような面談を心掛けています。 ・家族からの情報意向も聞き状態を詳細に把握しスタッフ間で話し合っ、統一したサービスの提供を行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・入居者さんの不安や喜び等本人の思いを共感し理解しています ・一般常識、四文字熟語、生活の知恵と日常生活の中で教えて頂いています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族との情報交換も出来、入居に至るまでの苦しみ等も話してもらえる関係が出来ています。 ・家族に問題が発生するとすぐ相談して頂き、家族とホーム側で一緒に本人を支えている関係が出来ています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人と家族の今までの関係に配慮しつつ、本人の状態を理解して頂けるよう、現状報告を行っています。 ・ホームとしてできる事、御家族に協力して頂きたいこと等を機会あるごとに話し、家族にも関わって頂いています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人からの希望があった場合電話等をかけています。 ・手紙のやりとりを継続している入居者さんもいます。 ・近所だったという知人、本人の兄弟、孫さん等の関係も保たれています		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・入居者さん同士の関係も把握し、時には食席移動等をして調整をしています。 ・最年長者の入居者さんに対して比較的若い入居者さんが気付き合いをし、持っている力を発揮しよい関係ができています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域に戻っている方が少なく、入院後退居の為に実施されていません		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人からしっかりと意向を聞きとっています。困難な場合は日々の生活の中での言葉を汲み取るようにしています ・時には七夕の短冊に思いを書いたりしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・個人データファイルを作成し、今までの生活歴を大事にしています。 ・入所前の情報、バックグラウンドに関することは、ご家族や甥、姪ごさん友人等の面会時に話を聞き記録しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・ホーム内での現状は生活記録に記入し、ひとりひとりの状態は、バイタル、食事、排泄等のチェック表で身体状況の変化の把握に努めています。 ・入居者さんには日常生活の中いろいろやって頂くよう働きかけをし現状の把握をしています。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を大事にし、カンファレンス等で、課題を検討しその人らしく暮らす為の介護計画を作成しています。家族からは機会あるごとに意見を聞き取り入れています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・設定した期間にモニタリング、カンファレンス等で見直しを実施しています。 ・状態の変化に応じて会議をし話し合い新たな計画を作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、日常の暮らしの様子や、本人の言葉、排泄、食事の分量のチェック等、身体状況を記録しています。特記に関しては(入居者さん申し送りノート)を作り勤務前には必ず読むことを周知徹底しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族状況により、自費サービスを活かしながら対応をしています。外出、外食等の家族の要望に応じています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ケアプラザの方がホームを訪問して下さり、情報を提供していただいたりしています。 ・ボランティアの協力は得られています。		・ケアプラザ等の地域資源を活用させて頂き講師を準備し、勉強会等を実施していきたいです。 ・隣人の方ともつながりができ、協力を得て消防、警察、ボランティアさん等の輪を広げていきたいです。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ケアプラザの催し物に出席しています。 ・ケアプラザのケアマネと今後の活動について話し合っています		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等の協働を実施しています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時に説明し、納得して頂き本人、家族等が決定しています ・通院介助の方法、伝達方法等は事前に家族等と話し合い合意されています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の医師との提携がされており、24Hオンコールの体制ができています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の訪問看護が実施されており、日常の健康管理をし、職員の疑問に答えてもらったり、入居者さんの訴えを聞いて頂いています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関と家族等と連絡をとり合い、情報提供等行っています。 ソーシャルワーカー等と面談し早期退院に向けて話し合っています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象者はいないが、家族等とは機会があるごとに、話し合いをしています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	その都度話し合い、同意書を頂いています。 (重度化した場合の対応に係る指針)		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には、以前の入所先から情報収集や家族等の協力を得て本人の不安、混乱が最小限になるよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者さんの前で、他の入居者さんの話しをしない、排泄等の言葉掛けもトーンや声の大きさに配慮しています。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	働きかけを行う際、必ず本人の意見を確認しながら行っています。家事又は趣味活動も声掛けをし、何がお好きか、何に興味をもたれているか、さぐりながら支援をしています。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんから(今日は散歩に行けるかしら?) (退屈だから何かしましょう)と希望を言われ、その方に合った暮らしができる様支援しています。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・服の選択はご本人にして頂いています。 ・髪染め、カット等ご本人の希望によりお店へ行ったり、訪問美容等で行っています。 ・毎朝の髭剃りも昔からのやり方で行えるよう支援しています。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・米とぎ等入居者さんの声を聞き水加減など話し合いながら行っています。 ・ドレッシング等何種類かの中から選んで頂き少しでも楽しみのある食卓にしています。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的に入居者さんの目につく所に、日本茶、紅茶、コーヒー等を置き、飲みたい時に本人の好きな物を選択できるようにしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、その人に合わせ声掛け誘導、定時誘導、全介助の方でも力が残っている方には、トイレ排泄の支援を行っています		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴を拒む方に対して、対応スタッフを替えて声掛けをしたり、対応方法に関する情報の共有を行って支援しています ・夕方や夜または毎日入浴希望などに合わせスタッフの動きもそれに合わせた工夫をしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・その日の生活状況に合わせて個別に休息をとって頂いています ・眠れない入居者さんについては、検証表を作成し、家族等に報告相談しながら、家族の意向により、医師とも相談をしています。 ・本人の今までの生活習慣により施錠して安心される方等はそのような対応の支援をしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の能力に合った役割を持って頂くことで、役に立って頂くという喜びを持って頂いています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族等と話し合いご本人が所有し、外出時好きなように使えるようにしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・日課のように散歩に出掛けています。 ・車イスの方も出来る範囲、1日に1回は庭先等に出ています		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話の中から希望を聞き、個別に外出しています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に事前に話し合い、本人が希望された時には、出来ない方には番号はこちらで押し、電話が出来るよう支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室内でゆっくりして頂けるような環境作りをしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な内容の資料をスタッフに配り理解し身体拘束ゼロに向けての意識向上を図っています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上施錠を行っているが、入居者さんが出たい時にはすぐ開けられるように対応しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・フロアには必ず見守りスタッフが1名いて、動きや様子を察知できるようにしています。 ・プライバシーに触れることのないようにしながら安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・入居者さんの状況に応じて、現在設置できる物は置き、危険の高い包丁、洗剤等はしっかり管理を行っています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハット、事故はきちんと報告し、周知徹底を行つています。 ・再発防止については、会議または、申し送り等で検討、再発防止に取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・応急手当の資料をファイルし学習しています。 ・緊急時等の対応マニュアルを作成し、時にはシミュレーション等行っています。		定期的な訓練等を計画していきたいです。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	設備点検は定期的に行っています。		今後、推進会議や自治会の会議で、地域の方へ協力を得られるよう取り組んでいきたいです。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・状況変化の際には家族には機会あるごとに連絡し、月1回の通信でも報告しています。 ・家族の希望も配慮しながら、対応策等の話し合いをしています。		
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・バイタルチェックを参考にし、その他食事量 顔色 様子等の変化を見落とさないよう、機会あるごとに周知徹底しております。 ・変化や異変は必ず記録、申し送りも周知徹底しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の内容を把握できるよう、生活記録と一緒にファイルし、常に目の届く所に置き確認しています。 ・必要な場合は服薬後の状況を検証し医師や家族に報告しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排泄チェック表や水分補給表を記入し把握しています。全体の取り組みとして、1日1回ヨーグルトを摂取しています。中にはプルーンやバナナを使用しています。 ・1日1回は身体を動かす体操も取り入れています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食後の口腔ケアは本人が出来る方なるべく声掛けを行っています。 ・義歯に関しては、スタッフが手入れ状態の確認をしています。 ・週2回衛生士さんの口腔ケアが実施されています。 ・週1回義歯、歯ブラシの消毒を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分量はチェック表を作成し、摂取量を把握しています ・水分に関していつでも飲めるよう、提供しています。 ・栄養バランスは嗜好を理解し、代替食を用意しています		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・予防や対応に関する資料をファイルし、会議等で周知徹底しています。 ・季節の感染症の情報収集に努め、スタッフに情報の提供をし、随時対応しています。 ・うがい、手洗いを励行しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所用品、フキン、等の衛生管理の取り決めができています。日々の事なので実行しています。チェック表を作っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口にはベンチを置きくつろぎ感を出し、玄関内には、観葉植物や季節の花を置き、癒し感を出したりしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロアにはなるべく花を飾るようにしています。 ・壁面を利用し季節を感じて頂けるような工夫をしています。 ・見当識の予防のため、大きな日めくりカレンダーで工夫しています		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや玄関外や内側にも常にひとりで座ったり数人で座って話ができるような環境を作り、居場所作りをしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたテレビ、箆笥や仏壇等置いています。 ・アルバムや写真立てを置き、安心して居心地のよいように工夫しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・フロアには温度計を置き、温度調整を行っています。 ・常にスタッフの感覚ではなく、入居者さんの状態に配慮をし、スタッフが意識して調整しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・本人の機能の変化に応じ、自立した生活が送れるように、家族と相談しながら改善に取り組んでいます。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・本人の出来ること出来ない事等スタッフ同士の情報を収集し混乱や失敗が起こる原因を探り、環境面の改善をし、一人で出来る事をして頂けるよう支援して、トイレ、風呂等の場所が分かるよう、のれん、貼り紙等をしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・出来る範囲、1日1回、玄関外のベンチテーブルを利用し、ティータイム等を行っています。 ・植物が好きな方には、庭の草むしり、草花の手入れ等行ってもらっています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

このホームで、住人として共に助け合い、共に喜び、共に笑いながら生活しています

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 横浜いずみ野
(ユニット名)	2U
所在地 (県・市町村名)	横浜市泉区和泉町7591-18
記入者名 (管理者)	菅沼 弓子
記入日	平成 19 年 7 月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	散歩に出たり地域で買物したり、散髪屋さん、スナック等利用し地域の人達と話しをしたり、又はご近所のお庭を見せて頂いたりして過ごしています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・スタッフルーム、玄関には、はっきりと掲示し、フロアにもさりげなく 提示し、常に意識づけをしています。 ・申し送り、スタッフ会議等で機会をもち話し合いの中で理念を確認し合っています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会に入会しました。		運営推進会議を機に地域との交流を深めていく取り組みをしていきたい
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・お隣の家でできた野菜を頂いたり、ホームでの餅つきに参加して頂いています。 ・近所にあるスナックをティータイムやカラオケ、誕生会等で利用しています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・1周年記念行事の際、地域の方々に参加して頂きたく招待のチラシを配布しました。 ・子供会で取り組んでいる廃品回収に月2回参加、協力しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	スタッフ間で、地域貢献に向けての話し合いは行っています		認知症を理解して頂けるような学習会に向けての取り組みを行ってきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議、学習会に全員で話し合い理解しています。		具体的に定期的な自己評価を実施していきたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	泉区の運営推進会議の第1回を8月に行います。メンバーを選出しています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・区役所にはよく足を運んでいます。 ・担当者とは電話等でもよく話をする機会を設けています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・現在制度を活用している方もいます。 ・本人に必要な時には、代弁者としての支援を行っています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内では皆のこととして話し合い、再確認できています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>職員の半数以上が開設以来のスタッフとなっています。離職、新設事業所への移動は数人です。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社内に研修制度があり、職員(パート職員)誰もが参加できるよう提示、回覧をしています。 ・月1回のスタッフ会議はスタッフ全員出席としています。その中で研修報告や資料提供をしています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・泉区と神奈川県 GH 連絡会に加入しています。 ・他の GH のホーム長と交流をする機会を持っています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・定期的にスタッフカンファレンスを行い、1対1でじっくり話し合う場を設けています。 ・ホーム内では、入居者さんから離れた所に休息の場を設けています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・現場での状況変化やスタッフの努力や成果は把握しています。 ・現場ではスタッフ各自が役割分担している所はスタッフに任せています。 ・健康を保つ為健康診断を実施しています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・御本人がゆっくと安心してお話しをして頂ける環境作りをしています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・家族等が今何に困っているのかをゆっくと話を聞くようにしています。 ・家族が今後どのようにしたいのか、思いも聞く様になっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が一番今困っていることや、相談内容に応じて説明をしています。(具体的にここならそのようなことが安心できます等の支援、対応しています)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人の面談時は納得されてない状態の方も少しでも信頼関係ができるような面談を心掛けています。 ・家族からの情報意向も聞き状態を詳細に把握しスタッフ間で話し合っ、統一したサービスの提供を行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・入居者さんの不安や喜び等本人の思いを共感し理解しています ・一般常識、四文字熟語、生活の知恵と日常生活の中で教えて頂いています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族との情報交換も出来、入居に至るまでの苦しみ等も話してもらえる関係が出来ています。 ・家族に問題が発生するとすぐ相談して頂き、家族とホーム側で一緒に本人を支えている関係が出来ています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人と家族の今までの関係に配慮しつつ、本人状態を理解して頂けるよう、現状報告を行っています。 ・ホームとしてできる事、御家族に協力して頂きたいこと等を機会あるごとに話し、家族にも関わって頂いています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人からの希望があった場合電話等をかけています。 ・手紙のやりとりを継続している入居者さんもいます。 ・近所だったという知人、本人の兄弟、孫さん等の関係も保たれています		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・入居者さん同士の関係も把握し、時には食席移動等をして調整をしています。 ・最年長者の入居者さんに対して比較的若い入居者さんが気付き合いをし、持っている力を発揮しよい関係ができています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域に戻っている方が少なく、入院後退居の為実施されていません		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人からしっかりと意向を聞きとっています。困難な場合は日々の生活の中での言葉を汲み取るようにしています ・時には七夕の短冊に思いを書いたりしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・個人データファイルを作成し、今までの生活歴を大事にしています。 ・入所前の情報、バックグラウンドに関することは、ご家族や甥、姪ごさん友人等の面会時に話を聞き記録しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・ホーム内での現状は生活記録に記入し、ひとりひとりの状態は、バイタル、食事、排泄等のチェック表で身体状況の変化の把握に努めています。 ・入居者さんには日常生活の中いろいろやって頂くよう働きかけをし現状の把握をしています。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を大事にし、カンファレンス等で、課題を検討しその人らしく暮らす為の介護計画を作成しています。家族からは機会あるごとに意見を聞き取り入れています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・設定した期間にモニタリング、カンファレンス等で見直しを実施しています。 ・状態の変化に応じて会議をし話し合い新たな計画を作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、日常の暮らしの様子や、本人の言葉、排泄、食事の分量のチェック等、身体状況を記録しています。特記に関しては(入居者さん申し送りノート)を作り勤務前には必ず読むことを周知徹底しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族状況により、自費サービスを活かしながら対応をしています。外出、外食等の家族の要望に応じています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ケアプラザの方がホームを訪問して下さり、情報を提供していただいたりしています。 ・ボランティアの協力は得られています。		・ケアプラザ等の地域資源を活用させて頂き講師を準備し、勉強会等を実施していきたいです。 ・隣人の方ともつながりができ、協力を得て消防、警察、ボランティアさん等の輪を広げていきたいです。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ケアプラザの催し物に出席しています。 ・ケアプラザのケアマネと今後の活動について話し合っています		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等の協働を実施しています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時に説明し、納得して頂き本人、家族等が決定しています ・通院介助の方法、伝達方法等は事前に家族等と話し合い合意されています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の医師との提携がされており、24Hオンコールの体制ができています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の訪問看護が実施されており、日常の健康管理をし、職員の疑問に答えてもらったり、入居者さんの訴えを聞いて頂いています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関と家族等と連絡をとり合い、情報提供等行っています。 ソーシャルワーカー等と面談し早期退院に向けて話し合っています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象者はいないが、家族等とは機会があるごとに、話し合いをしています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	その都度話し合い、同意書を頂いています。 (重度化した場合の対応に係る指針)		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には、以前の入所先から情報収集悪や家族等の協力を得て本人の不安、混乱が最小限になるよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者さんの前で、他の入居者さんの話しをしない、排泄等の言葉掛けもトーンや声の大きさに配慮しています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>働きかけを行う際、必ず本人の意見を確認しながら行っています。家事又は趣味活動も声掛けをし、何がお好きか、何に興味をもたれているか、さぐりながら支援をしています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者さんから(今日は散歩に行けるかしら?) (退屈だから何かしましょう)と希望を言われ、その方に合った暮らしができる様支援しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・服の選択はご本人にして頂いています。 ・髪染め、カット等ご本人の希望によりお店へ行ったり、訪問美容等で行っています。 ・毎朝の髭剃りも昔からのやり方で行えるよう支援しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・米とぎ等入居者さんの声を聞き水加減など話し合いながら行っています。 ・ドレッシング等何種類かの中から選んで頂き少しでも楽しみのある食卓にしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居者さんの嗜好を把握し、その都度お好きな物を話せる雰囲気作りをしています</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、その人に合わせ声掛け誘導、定時誘導、全介助の方でも力が残っている方には、トイレ排泄の支援を行っています		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴を拒む方に対しても、対応スタッフを替えて声掛けをしたり、対応方法に関する情報の共有を行って支援しています ・夕方や夜または毎日入浴希望などに合わせスタッフの動きもそれに合わせた工夫をしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の今までの生活習慣により、施設して安心される方等はそのような対応の支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の能力に合った役割を持って頂くことで、役に立って頂くという喜びを持って頂いています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際、おひとりで、無理な方もレジでの支払い等スタッフが見守りながら行っています		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に使用している物がなくなると、近くのスーパーに買物に行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日会等を利用しなるべく本人の願いが叶えられるような計画を立てています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外からの電話も本人につながっています。時には、子機を使用し、居室で話ができるようにしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間は、夜しか来られない家族もいて、柔軟な対応をしています。 ・食事を持参された家族は、フロアで一緒に食事ができるようにしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な内容の資料をスタッフに配り理解し身体拘束ゼロに向けての意識向上を図っています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上施錠を行っているが、入居者さんが出たい時にはすぐ開けられるように対応しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・フロアには必ず見守りスタッフが1名いて、動きや様子を察知できるようにしています。 ・プライバシーに触れることのないようにしながら安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・入居者さんの状況に応じて、現在設置できる物は置き、危険の高い包丁、洗剤等はしっかり管理を行っています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハット、事故はきちんと報告し、周知徹底を行つています。 ・再発防止については、会議または、申し送り等で検討、再発防止に取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・応急手当の資料をファイルし学習しています。 ・緊急時等の対応マニュアルを作成し、時にはシミュレーション等行っています。		定期的な訓練等を計画していきたいです。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	設備点検は定期的に行っています。		今後、推進会議や自治会の会議で、地域の方へ協力を得られるよう取り組んでいきたいです。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・状況変化の際には家族には機会あるごとに連絡し、月1回の通信でも報告しています。 ・家族の希望も配慮しながら、対応策等の話し合いをしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・バイタルチェックを参考にし、その他食事量 顔色 様子等の変化を見落とさないよう、機会あるごとに周知徹底しております。 ・変化や異変は必ず記録、申し送りも周知徹底しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の内容を把握できるよう、生活記録と一緒にファイルし、常に目の届く所に置き確認しています。 ・必要な場合は服薬後の状況を検証し医師や家族に報告しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排泄チェック表や水分補給表を記入し把握しています。全体の取り組みとして、1日1回ヨーグルトを摂取しています。中にはプルーンやバナナを使用しています。 ・1日1回は身体を動かす体操も取り入れています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食後の口腔ケアは本人が出来る方なるべく声掛けを行っています。 ・義歯に関しては、スタッフが手入れ状態の確認をしています。 ・週2回衛生士さんの口腔ケアが実施されています。 ・週1回義歯、歯ブラシの消毒を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分量はチェック表を作成し、摂取量を把握しています ・水分に関していつでも飲めるよう、提供しています。 ・栄養バランスは嗜好を理解し、代替食を用意しています		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・予防や対応に関する資料をファイルし、会議等で周知徹底しています。 ・季節の感染症の情報収集に努め、スタッフに情報の提供をし、随時対応しています。 ・うがい、手洗いを励行しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所用品、フキン、等の衛生管理の取り決めができています。日々の事なので実行しています。チェック表を作っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口にはベンチを置きくつろぎ感を出し、玄関内には、観葉植物や季節の花を置き、癒し感を出したりしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロアにはなるべく花を飾るようにしています。 ・壁面を利用し季節を感じて頂けるような工夫をしています。 ・見当識の予防のため、大きな日めくりカレンダーで工夫しています		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや玄関外や内側にも常にひとりで座ったり数人で座って話ができるような環境を作り、居場所作りをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたテレビ、箆笥や仏壇等置いています。 ・アルバムや写真立てを置き、安心して居心地のよいように工夫しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・フロアには温度計を置き、温度調整を行っています。 ・常にスタッフの感覚ではなく、入居者さんの状態に配慮をし、スタッフが意識して調整しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・本人の機能の変化に応じ、自立した生活が送れるように、家族と相談しながら改善に取り組んでいます。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・本人の出来ること出来ない事等スタッフ同士の情報を収集し混乱や失敗が起こる原因を探り、環境面の改善をし、一人で出来る事をして頂けるよう支援して、トイレ、風呂等の場所が分かるよう、のれん、貼り紙等をしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	植物が好きな方には、庭の草むしり、草花の手入れ等行ってもらっています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

このホームで、住人として共に助け合い、共に喜び、共に笑いながら生活しています